

会 報
 2019年8月号
 東京アルコウ会



乾徳山を望む

◆8月集会
 期日 8月25日(日)PM2:30～
 場所 赤城生涯学習館
 係 河西、小国
 会務、山行計画・報告

◆8月委員会(同日PM1:00～)
 係・田村
 議題・100周年関連(記念山行、記念グッズ 他)
 山行計画(お月見他)

◆9月集会の予定
 9月29日(日) PM2:30～

9月山行計画
 ◇日帰りハイキング
 期日 9月7日(土)

場所 奥]武蔵・大霧山 (リベンジ)
 係 布川

◇日帰りハイキング
 期日 9月22日(日)
 場所 奥多摩・榎ノ木山・倉戸山
 係 岡本

◇日帰りハイキング
 期日 9月28日(土)
 場所 富士周辺・杓子山
 係 布川

◇お月見山行について

お月見山行は、10月13日(日),14日(月・祝日)に行います。場所は例年と同じ東雲山荘です。参加者の募集を8月集会にて、行います。集会に参加出来ない方は、河西までメール・電話でご連絡ください。なお締切は9月集会までとします。

山行報告 山行回数 NO.5676

○2019.7..29(月)

奥多摩・大塚山

=係 岡本=



大塚山山頂にて

参加者 L岡本、小国、久住

(参加人数3名)

◇7月29日(月) 晴れ後雨

JR青梅線古里駅に集合。電車には登山客が多数いたが古里駅前広場には我々3人のみ。早速国道411号線を西へ600mほど進み、道標で脇道の生活道路に入る。騒音から抜け出し、花を植えた庭付き人家の前を通り抜けていく。さらに道標で谷に下り寸庭橋で多摩川を渡

り、登山道に入る。橋を渡り終え急峻な道を登って行き、台地に出て人家の中を通り、多摩川の支流寸庭川を渡る。道標がよく整備されており有難い。道路には

お地蔵さん、石碑などがあり、古くからの生活が見られる。

右手に多摩川の支流越沢の谷を、左手に山。杉などの植林帯の山腹を進む。植林の木々は下枝がよく払われて木漏れ日が入り、下草が茂り、人が来ないのかクモが巣を作っており顔に当たり不愉快。

崩壊した神社の社が現れた。地図では金毘羅神社となっている。破損した鳥居をくぐり、尾根にでると右は断崖絶壁ではるか下にうっそうと木の茂があり、見えないがその下に越沢がある。鉄五郎新道の急な登りの尾根上は延々と続き、蒸し暑く時々休憩し水を飲みながら登る。木製の手の込んだ手作り看板を見つける。「草花に♡を」「岩団扇保護地」と透かし彫りで作ってある。岩団扇(イワウチワ)は絶滅危惧種である。看板の下には団扇の形をした、3cm程度の大きさの葉の植物が群生している。花はすでに終わっており葉のみである。

今まで急峻な登りの尾根ばかりであったが、尾根上の平らなところに出たので昼食休憩とした。昼食後再び尾根の急坂を登って行くと山頂に出た。広沢山山頂である。左手はスギ、ヒノキの植林、右は広葉樹の自然林であり、どの木も大木で見晴らしは悪い。本日初めての山頂に喜ぶまもなく、雷鳴が頭上でなり始めた。朝の晴天はどうしたことか空は雲に覆われている。大急ぎで大塚山を目指す。なだらかな下り、再び登りとなり、工事中の電波塔が尾根上に立ちふさがるように立っている。電波塔の横をすり抜けるように通り、急な山腹を登って行き、ベンチ、テーブルが備えた大塚山山頂に登頂。虫取りに来ている親子が休憩していた。今日初めて出会った登山者である。雷鳴はなおも続き、(止みそうにないので、その先の予定のコースを割愛して)御岳山駅を目指して先を急ぐ。



尾根上の緩やかな下り道を進み「ケーブルカー駅」の道標を見つけケーブルカー駅へ急ぐ。頭上の木の葉に盛んに雨音粒の当たる音が聞こえ、雨粒が下にも降ってきた。「レンゲショウマ」の季節の看板を横目で見つづケーブルカー御岳山駅へ急ぎ駅前に到着。土産物屋に入り、雷鳴と雨を眺めながらゆっくり休憩してからケーブルカーに乗った。ケーブルカーで滝本駅に下り、バスに乗り、御岳駅に行き、御岳駅から青梅駅まで乗り、青梅駅から立川行に乗り、解散とした。

(記 小国)

<コースタイム>

JR中央線古里駅出発9:13→登山口9:40→寸庭橋9:45→金毘羅神社跡11:10→以降鉄五郎新道→広場12:40昼食休憩～13:05→広沢山13:20→大塚山14:10→「ケーブルカー駅」の道標14:25→ケーブルカー御岳山駅14:35・ケーブルカー発15:00⇒ケーブルカー滝本駅バス停発15:22⇒御岳駅発15:44⇒青梅駅発16:08

山行報告 山行回数 NO.5677

○2019.8.3(土)

御坂山塊・三つ峠山

=係 布川=

参加者 L布川 窪田 吉田 久住 白石 高橋y
(参加者人数6名)

◇8月3日(土) 晴れ

梅雨の為、延期を重ね梅雨明けの本日実施となる。東京の予想最高気温35℃。富士急線河口湖駅集合。JRの運行不良の為?高尾駅集合が変更。富士急の車輛が機関車トーマス、シートもトーマス、デズニーキャラクター等でラッピングされていて子供にとって楽しい電車。目の保養にはなるが何せ少々時間がかかる。携帯のおかげで連絡を取りあえる。河口湖駅で吉田氏と久住氏と無事合流。

一時間に一本か二本の数少ない天下茶屋行きバスに



乗る。30分程の乗車で三つ峠登山口にて下車。いよいよ歩き始める。森林の中を歩くためか少し東京より気温が低く感じられる。時折吹き渡る風が気持ち良い。私の苦手な登り。四駆が走っているデコボコ道、轍の跡が歩きにくい。でもリーダーが暑さ対策で小刻みに水分補給の休憩をとってくれて助かる。木無山手前でお花畑。歩きやすいし、花が気持ちを和らげてくれ

る。楽しみながら山頂を通過し、開運山（三ツ峠山）へ向かう。ホンの少しの登り。ランチが待っていると四苦八苦しながら階段を上がる。これが結構きつかった。日差しがカンカンに照りつけ日影がない。山頂は富士山も厚い雲に覆われて姿を見せない。太陽のみが容赦なく照りつける。ランチするに適切な場所を見つけられず四季樂園までもどる。階段を130段まで数えたと言う白石さん。元気だ。階段をほぼ下りきった所で、吉田氏ブランド物のジャケットを山頂に置いてきたと言う。取りに戻る。ご苦労様。木陰のベンチに腰を下ろし目の前の屏風岩を見つめる。豆粒のようなクライミングしている人の姿を見る。以前に少し岩にチャレンジした時のことを思い出す。ハーネスをつけてクライミングシューズをはき、ヘルメット、そしてエイトカンにロープを通して岩に向き合うと身体に緊張が走る。私は一週間以上間をあけてしまうと岩が怖い。腰がひけてしまう。調子が良い時は岩が私に次のホールドに導いてくれる。苦なくトップに着くことができる。自然の匂いを全身に吸い込む。ヤッターという達成感 最高！少しでもオーバーハングがあると登れない。握力というより腕の力だけで自分の身体を持ち上げることができない。鉄アレーで腕を鍛えるように言われたけれど、ついにやらずに終わってしまった。

自販機に冷たいビール ほんの一口 喉を潤し、遅いランチ。下りは母の白滝コースをとる。地図上では距離が短いからこの方がいいと思ったが意外ときつかった。砂防ダムの水音が聞こえてきても、ずっと沢沿いを下っているはずなのに水の姿も音も見えない、聞こえない。段差の大きな寺川の流れは下りの急傾斜、階段がついている所はなおのこと急斜面なのだ。下りの苦手の久住氏には気の毒に輪をかけて、川の流れが見える所はこっちがいい、あっちがいいとカメラの撮影ポイントに異動させる。水はきれいだし、凜とした空気が靖冷でいうことなし。母の白滝迫力があつ



て素晴らしいの一言。窪田氏の最新兵器がなかったら、ルートを間違えて母の白滝に出会えなかったかもしれない。予定していたバスに乗り河口湖駅へ。

駅で少し混乱はあったが高速バスを得ることができた。駅の気温28℃。東京より少し低い。売店でソフトクリームが売り切れだと山頂から待ちに待っていたのにアイスクリームで我慢。でも休憩所の無料セルフサービスの水とても美味しかった。富士山の水かな。

二時間ぐらいでバスタ新宿に。午後9時過ぎても昼間のような明るさとすごい人混みに白石さん目を丸くしていた。河口湖と高速に乗ってから見た薄墨の富士山、屏風岩 念願がかなえられて幸せ。

(記 高橋y)

コースタイム>

河口湖駅前バス停9:50発⇒三ツ峠登山口10:35→木無山12:30→開運山（三ツ峠山）13:00→四季樂園13:20～14:20→木無山14:30→母の白滝17:05→河口湖局前バス停17:5⇒河口湖駅18:10

山行報告 山行回数 NO.5678

○2019.8.11(日)

奥武蔵・南沢山

=係 岡本=

参加者 L岡本、小國、吉田、延里、阪野(お試し山行)
(参加人数5名)

◇8月11日(日) 晴れ

6時過ぎに家を出ると、酷暑を予想させるように既に蝉が鳴いていた。

今日は「山の日」である。飯能駅前では埼玉県消防局山岳救助隊員が登山者に登山計画書の提出を求め、提出の見返りにアルミ温熱シートと緊急ホイッスルライトを無料配布していた。



参加者5名は飯能駅前8時22分発の中沢行きバスに乗車し、中藤で下車した。中藤バス停は、三叉路分岐にあって、西側車道脇には1.5m程の自然石に刻んだ「南

無阿弥陀仏」の石碑(約330年前の元禄3年建立)と「子ノ山表道」の道標(江戸時代初期の建立と推定)がある。この地が往時より竹寺、子ノ権現方面への主要な参拝道であったことがわかる。三叉路分岐の突端に鳥居があり、小さな社殿の横から尾根道に入る(道標なし)。落ち葉が深く若干急坂な道が続く。入山者がいないのか、行く手を塞ぐように蜘蛛の巣が張っており、先頭者は枝木で巣を払いつつ歩く。周りは自然林で蝉時雨、野鳥の音が聞こえ、足元には猪が掘った幾つもの穴がある。

自然林の中を20分程進むと杉、檜の植林帯に変わる。全員は汗だく、水分補給の休息をとりながら進む。416mの小ピークを過ぎると、緩やかな起伏の道が続き、南沢山(なんざわさん)直下の急坂を登りきって南沢山山頂(466m)に着いた。杉、檜に囲まれ展望の利かない円丘状の山頂には、手製の山名札が幹に掛かっている。飯能市史資料編(ネットより)に拠れば、南沢山は女人禁制の神聖な場所で、昔は頂上に龍神が主の池があって、村人は池の水を使って御精進をしたという。現在は池はないが、その精進岩と称する露岩が杉林の中に残っている由。

南沢山より南沢峠の間には巨木が目立った。南沢峠(395m、道標なし)は東の檜久保と西の栃屋谷を結ぶ峠だが、歩く人もなく廃道となって消えていた。この南沢峠から10分程は山行中最も傾斜の厳しい急登であった。南沢峠から40分程で栃屋谷と飛村を結ぶ長久保坂(440m)に至るが、ここにも道標はない。414mの小ピークから長久保坂までほぼ植林帯の中の、広めの尾根道であったが、ここから幅50cm程のトラバース道になる。15分程で半壊した祠に着いた。時刻も12時丁度、祠の前で昼食とした。沢(高岸川)より吹き上げてくる山谷風の涼気で生き返り、うまい飯を食べながら団欒を楽しみ、汗も引いて、食後の昼寝ができれば極楽なのよとの思いを排して漸く腰を上げた。

昼食後は、沢(高岸川)沿いに降って、飛村集落を通り、平坂飛村林道にでる。林道のY字分岐を右に入って直ぐの所にある道標「吾野駅、大高山、天覚山」で山道に入る。この日初の道標から25分程緩やかに登って前坂(425m)に着く。前坂から吾野駅までは植林帯の中の緩い降りである。山道を終える直前の、若干急な降



りの先で広い墓苑に出る。墓苑には、盆供養の人が三々五々参っている。墓苑の水道水を借りて顔を洗い、一息つく。「吾野湧水」で喉を潤して駅に向かう。

駅近くで、傘をさした中年のご婦人に「リュックサックの旗にある東京アルコウ会はどんな会ですか」と声を掛けられたので、入会のチラシを手渡して説明した。ご婦人は、「駅から次の駅までの村里の道を時々歩きに來ます。幼い頃の昔が懐かしくて」田舎を歩いているようだ。

吾野駅で午後2時37分の飯能行きに乗る。飯能で下車し、登山者の中で知られる駅前本通りの中華料理店で楽しい反省会をした。

今回の山行は、極めてマイナーで道標がなく登山道も特に整備されておらず、植林帯の尾根道を歩くコースである。言い換えれば、尾根筋の作業道である。日曜なので、植林の中に間伐作業用の山道具がビニールを被せて幾つも置いてあった。山行中は全く誰とも会うことなく、静かな自然を満喫できた。蒸し暑く、頭や首に巻いたバンダナやタオルを絞ると、汗が滴り落ちるほど汗をかき状況なので、こまめに水分補給の休憩をとり、梅干しなどで塩分を摂取するなど熱中症対策に注意した。

(記 岡本)

<コースタイム>

飯能駅前発 8:22⇒中藤バス停8:57⇒南沢山10:35⇒南沢峠11:05⇒長久保坂11:45⇒祠12:00~12:40⇒前坂13:20⇒吾野駅着14:30

随想

山に親しみ山に想う(20)

—韓国俗離山国立公園紀行—

=岡本=

2002年10月、開天節(韓国の建国記念日)の祭日3日と4日にかけ1泊2日で慶尚北道と忠清北道の道境にある俗離山国立公園を歩いた。法住寺から俗離山文蔵台(注)に登り、尚州市化北面に降って帰京した。

3日朝8時過ぎに家を出る。地下鉄二村駅で4号線に乗り、舎堂駅で2号線に乗換え、9時10分に東ソウルバスターミナル駅に着く。ターミナルでキツネうどん(3500ウオン)を掻き込み、9時30分発の俗離山行き長距離バス(11600ウオン)に乗る。満席である。全員が俗離山行きというわけではなく、清州や報恩行きの乗客が多い。途中、清州辺りから一般バスのようになり幾ヶ所も停車して行く。12時55分に俗離山バス停終点に着く。約3時間半の所要時間。

終点バス停に着くや、待ち受けるように宿屋の客引きおばさんが新羅荘に泊まれと声を掛けてくる。値段を

尋ねると、2.5万ウオンという。「ふーん」と返事すると、さらに追っかけてきて2.0万ウオンに値引きするという。時間はまだ午後1時だし、登山口近くに宿を取ったほうが便利なので、おぼさんに関わらず、今日中に法住寺見学を済ませるために寺に向かう。大通りの両側は、土産物店、食堂(主に郷土料理)、裏通りには民泊、旅館、モーテル、ホテルさらにはナイトクラブの看板も見える。世俗化も甚だしい。

土産物店が途切れた先、俗離橋のたもとに案内板があり、法住寺1.9km、俗離山文蔵台7.7kmとある。その先にある入山切符売場の料金は、3200ウオン(国立公園入園料1300ウオン、文化財(法住寺)観覧料1900ウオン)と他の国立公園より割高(一般に2600ウオン)になっていた。法住寺だけを訪れる人も3200ウオンであり、参拝に来た人は「高いなあ」と漏らしていた。こちら辺りから文蔵台に至る地域は法住寺の寺域のようである。

「湖西第一伽藍」の扁額が懸かる南大門を潜る(湖西は忠清南北道の称)。無蓋の大仏(統一護国金銅弥勒大仏)はテカテカの金色であるが、五重塔は重厚な趣があり立派である。金堂は修復中。法住寺は、西暦559年(新羅真興王14年)に義信祖師が統一を祈願して建立したが、壬辰倭乱(文禄の役のこと)で焼失し、李氏朝鮮仁祖23年(1625年)に再建された由で国宝3点が所蔵されている。小学生の団体が遠足で来ている。バス停からも近くて交通の便が良いこともあって訪問者は多い。午後2時20分頃寺をでた。

約30年前釜山勤務当時(1970年代)に、大田市からタクシー(車種はノックダウン輸出されたトヨタコロナ)で法住寺に来たことがある。タクシーはオンボロで足元の床から砂埃が入ってきて往生した覚えがある。法住寺の建物自体はよく覚えていないが、大仏は金色ではなくセメントのようであったと思う。

入山切符売場から近いところのソニンタウン旅館に宿をとった。2万ウオンの前払い。風呂、テレビありで、タオルは貸してくれる。やはり建物は安普請。布団にはタププリ香水が散布。小白山国立公園内の民泊の2.5万ウオンと比べれば、大満足。夕食は近くの食堂でピビンバップ(6000ウオン)を食べたが、蠅が箸にまで止まってくるので嫌になり残した。売店でポカリ、ロールケーキ、チョコレートなど明日のカロリー源とフィルム2本を買った。ソウルでは2500ウオンのフィルムが3000ウオンだ。風呂に湯を張ったがぬる過ぎ、風邪を引くかもしれないので止め、テレビを見てそのまま寝た。持参した「ローマ人の物語(1)」を読了した。

翌4日は6時50分に宿を出た。朝食はロールケーキ2個と賞味期限切れのポカリ。地方の田舎でポカリなどの飲料や菓子を買う際は、賞味期限をよく調べないと期限切れが多い。食堂で他人の歯型がついたものに出くわすことに比べれば、期限切れなどとやかく言うべきことでもないか。7時に入山切符売り場を通り、7時10分に法住寺に着く。寺門から文蔵台まで5.9kmである。肌寒く、冬の装備が必要だ。蓮池の水面には朝靄が立つ。案内板のある三叉路で右の文蔵台(4.1km)へ、溪流



をみながら穏やかな道を進む。7時50分頃から漸く登り道となる。登りからすぐにある洗心亭休憩所(ベンチを置いた売店)の三叉路で左に道を取る。その先に「湖西第一禅院」の扁額の懸かるポックチョン庵がある。文蔵台まで2.5km地点のヨンパウイ休憩所に着く。ここからチョット登山道らしい道となる。この後、頂上までに更に2箇所休憩所がある。休憩所のおぼさんが「寄って休んでください。他の一行の方は後から来られますの」と誘う。「いいや、一人」と素気無い返事を返す。何か飲み物を買ってあげようかと思うが、賞味期限切れのポカリがリュックにある。

9時45分に文蔵台(1033m)頂上に着いた。頂上近くに若干の急坂があったが、緊張するようなところはなく、登山道というよりハイキングコースと言うべきである。休憩所の売店は道の途中に多く、また頂上にもあって過当競争気味である。文蔵台の山名は、雲の中に佇む山ということから雲蔵台と呼ばれていたが、李氏朝鮮の世祖がここで詩を吟じたことから文蔵台と称されるようになったと言う。3回登れば極楽にいけるとも言う。頂上は10m四方の岩の台地で鉄の階段が設けられている。手摺に寄りかかると、岩頭から身を乗り出すような感覚にとらわれて、足がすくむ。頂から遠くの山波を撮っていると、「撮ってあげる」と青年に声を掛けられた。名古屋に3年住んでいたという。では日本語は上手なんだろうと尋ねると、挨拶程度だと韓国語で答えてきた。従業員100人程の会社の研修旅行できているという。下の方で、その会社の連中が「団結だ」とシュプレヒコールを叫んでいる。元気があって頼もしいのだが、傍若無人。他の登山者への迷惑を考えず、頂上への道を占拠し塞いでいる。陽は燦々。頂上の岩に座りポカリを飲む。天界に浮かんでいるような自分を感じて気分は爽快だ。遠くに重畳たる岩稜が威圧し、下にキャラメル程の家屋が集落をなして穏やかである。南方向に毘盧峰(1032m)と最高峰の天王峰(1057m)が岩稜の先近くに聳え、南西方向に法住寺を抱え込むように山峽が望見できる。

1時間ほど頂上に居て、10時40分に法住寺とは反対側の尚州市化北面の方向に降る。文蔵台と化北管理事務所間は、3.3kmである。こちらの道は登山コースらしく幅1m程で土、岩、礫の変化のある登山道である。危険

なところはなく、登山者にとって大人しく温順である。ソウル市街近くの北漢山国立公園内のコースを思わせる。下から中学生の団体、中年のグループが登ってくる。

12時半頃、化北管理事務所に着く。その近くにある入山切符販売所でバス停の場所を尋ねたところ、少し行った所の化北市場(露店朝市か)にあると言う。舗装された地方道をドンドン30分以上歩いても、集落は出てこない。途中、深さ20~30cmで底が岩盤と砂の溪流に、小魚が群れて遊泳しているのを見つけた。心が和んで、ふと振り返ると峰の陰に隠れていた俗離山の稜線がクッキリと見える。山では振り返ると予想外の景観が現れることがある。裸足になって沢に入って歩くと、岩底はヌルヌルで砂地では土踏まずに快い刺激が伝わる。揃って頭を上流に向けている小魚の群れが、指図されたかのように瞬時に滑るように川下に流されては、流れに抗して上流に反転する。魚影が底に点々と映っている。道草の後、チャンアン里の標識がある立派な舗装道路の分岐に着く。「刺身の店」というレストラン前で地元の老人に化北市場のバス停を尋ねると、「ここから右にずうっと行かないとバス停はないよ」との返事。「少し行く」と「ずうっと行く」を聞き間違えたか。それはあり得ない。

遠くに小学生1年生くらいの子供が6人程学校から帰っていくのが見える。その後方に壁の塗装も新しい校舎が見える。周囲の畑の手入れもよく、ビニールハウスもある。農協倉庫前の小型トラックをみても農産物の流通も良好で、農事は堅実に営まれているのが見て取れる。「ずうっと」歩いた末に、やっと化北面事務所に着く。その先の交番所に寄って、若い巡査にバス停の場所と尚州市街方面へのバス時刻を尋ねた。バス時刻は知らないが、バス停は交番の前にあると言う。確かに雨除けの板囲いがあり、椅子もある。しかし、バ



ス停とも書いてないし、時刻表も何もない。現在2時。バス停向かいの日陰を作っている木の下に座って、どこ行きのバスであろうと止まったバスに乗ることにした。40分後、尚州市街行きが来たので乗車。バスひとつ乗るのに、これほど苦勞するとは。停留所に時刻表がないことを異常とは思わず、地元の人々もこれを不便とも思わないのだろうか。

4時に尚州市のターミナル(1200ウオン)に着き、4時半発の東ソウル行きバス(15000ウオン)に乗り換え、8時10分に東ソウルに着いた。ターミナル横のコンビニでコーヒー(500ウオン)を飲み、腹の底から安堵の息を吐いた。韓国の登山体験というよりも、ソウルと地方の文化的格差という観点からは、貴重な体験ができた。

(注) 俗離山(ソンニサン)：韓国中部地方の忠清北道報恩郡、キ(人偏に鬼)山郡、慶尚北道尚州市にまたがって存在する天王峰(1057.3m)、文蔵台(1033m)、毘盧峰(1032m)、観音峰(985m)などを含む九峰の山塊の総称、紅葉の名所で韓国八景の一景。

(了)

東京アルコウ会

代表 窪田 紀夫 TEL 0297-73-1237

〒302-0022 取手市本郷1-19-13

事務所 〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町2-21-10

谷口 宅 TEL 0422-48-1303

発行 令和元年8月25日